

留学のインパクトを若い世代へ

—グローバル人材 5000 プロジェクトが目指すもの—

Disseminating the Impact of Study Abroad:

What can We Accomplish through the GJ5000 Project?

東洋大学国際地域学部教授 芦沢 真五

明治大学国際日本学部教授 横田 雅弘

ASHIZAWA Shingo

(Professor, Faculty of Regional Development Studies, Toyo University)

YOKOTA Masahiro

(Professor, Faculty of Global Japanese Studies, Meiji University)

キーワード：海外留学、学習成果分析、留学のインパクト分析

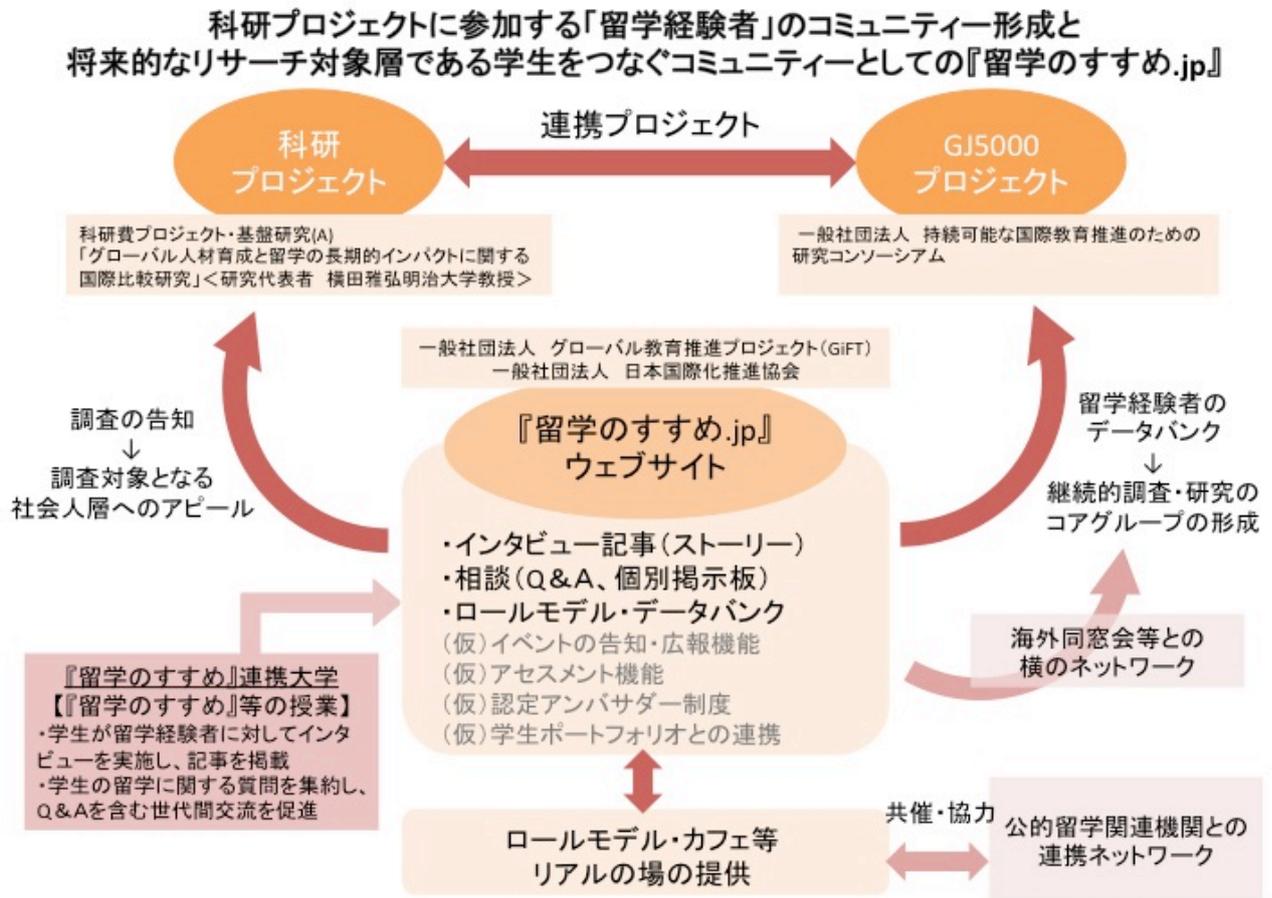
はじめに - 「留学のすすめ.jp」が始動へー

留学経験者 5000 人のネットワークを構築して、研究や教育のために運用するプロジェクト「グローバル人材 5000」（以下 GJ5000 という）は、3 月のキックオフ以降、大学関係者、国際教育関係者、企業関係者などの協力を受けながら発展し、11 月から「留学のすすめ.jp（ドットジェイピー）」というサイトを運用開始することになった。

「留学のすすめ.jp」は、留学経験者のプロフィール、インタビュー記事などを掲載するほか、留学を志望する若い世代が留学経験者に質問したり、助言を得られるようなコミュニケーション機能をもったオンライン・コミュニティーである。最終的には 5000 人を超える留学経験者、留学を志望する大学生や高校生が参加するコミュニティー・サイトとして発展させていく。本年 11 月 22 日、23 日に実施される「学生の海外体験学習とグローバル人材育成にかかわる研究大会」（会場：東洋大学白山キャンパス）において、GJ5000 の特別セッション（11 月 22 日午後）が企画されており、ここで同サイトの詳細を公開し、広く参加者を募る予定である。

GJ5000 プロジェクトは、日本の留学交流を活性化させ、留学経験者のネットワークと繋がることで若い世代の留学を支援し、地球市民としてのグローバル人材育成に寄与することを目的としている。この目的を達成するために、① 研究活動、② ネットワーク構築活動、③ 啓蒙・教育活動をすすめて

いる。本稿では、これら三つの役割を概観するとともに、科研費による研究プロジェクトを基盤としてスタートした GJ5000 の歴史的意義について報告する。また、GJ5000 を支えるオンライン・コミュニティ「留学のすすめ.jp」の概要を紹介する。



1. 研究 - 科研費調査と GJ5000 -

GJ5000 は、文部科学省による科学研究費補助金基盤研究 (A)「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する国際比較研究」(研究代表者：横田雅弘明治大学教授)を基盤として展開されているプロジェクトである。この科研費による研究は、平成 25 年度から 3 年間にわたって実施されているが、米国における同様の研究をモデルとして、留学経験者 5000 人を追跡調査し、留学が個人のキャリアや人生に与えるインパクトを分析していく。また、雇用主や現役学生の意識調査も並行して実施する。

この科研調査は、留学交流をめぐって新しい潮流がおこっていること、留学の成果分析が多面的におこなわれようとしていること、を背景として推進されている。かつてエリート教育の一環としてみながされていた留学であるが、高等教育の市場化の潮流の中で「留学の大衆化」が生み出され、今や全世界の留学生数は 450 万人に達している。従来型の留学と現代における留学の特徴を比較すると、特に留学の形態、目的、期間が多様化しており、従来からの学位取得を目指す留学や交換留学に加えて、フィールドワーク、インターンシップ、国際ボランティアなどが盛んにおこなわれるようになった。

このような留学の形態の多様化にともない、その成果をどう測定し、指標化するのかという課題にも直面している。

一方、高等教育の質保証をめぐる議論を背景に、グローバル社会で活躍しうる人材に求められるスキルと能力を明確化することが期待されている。留学がグローバルに活躍しうる人材育成には有効である、という社会通念は定着しているが、実際にどのようなスキルや能力が海外学習を通じて養成されるのか、を分析する取り組みはまだ始まったばかりといえる。

高等教育の「出口」で学位の「品質保証」をするため、「学習成果」を定義する動きが世界中で展開されている。OECDが推進するAHELO (Assessment of Higher Education Learning Outcome) プロジェクトは、分野ごとの学習成果の定義化をすすめている。欧州の大学では、チューニング・プロジェクトに基づいてDegree Profileという形で、学位の成果として「何ができるようになったか」を明文化する努力がすすめられている。豪州でもGraduate Attributeという名称で学位取得によって得られる能力の定義化をすすめている。このように「出口の品質保証」のために、アウトプットよりもアウトカムを重視する傾向が強まっている。留学交流の分野も同様である。「何人が留学したか」というアウトプットよりも「何ができるようになったか」というアウトカムが重視されるようになってきている。

留学が個人の学びにどのような成果をもたらしているか、については欧米を中心に学習成果分析 (Outcome Assessment) にかかわる研究が盛んにおこなわれてきた。留学によって語学力や異文化適応力が高まることは、すでに多数の研究論文によって立証されている¹。その一方、留学がキャリアや人生に及ぼす長期的インパクトについて多面的な分析は、最近までほとんど行われてこなかった。これまでの研究が、主として1) 留学前、2) 留学中、そして3) 留学直後の3つの段階で実施されてきたため、留学経験者を長期にわたって追跡調査することが困難であったことも起因している。長期にわたる大規模追跡調査の数少ない事例として、Beyond Immediate Impact: Study Abroad for Global Engagement (SAGE) 「国際的社会参画に関して留学が与える長期的インパクトに関する調査」(2006-2009)がある²。この調査は、留学経験のある卒業生 6300 人余りの経験と見解を「回顧的追跡調査(retrospective tracer study)」という手法で検証している。

今回の科研費研究では、この米国における大規模追跡調査、SAGEの手法を参考としながらも、日本独特の社会情勢や教育基盤を考慮して、留学経験のある社会人を対象にオンライン調査を実施する。11月から開始されるオンライン調査では、日本の大学関係者、大使館及び公的留学機関、国際教育団体、海外大学の同窓会、キャリア関係企業、企業の人事部門など、あらゆるチャンネルに協力を呼び掛けて調査を実施していく予定である。

以下のサイトから、アンケートに回答することができるようになるので、留学経験のある社会人の方には是非ともご協力をいただきたい。

アンケートの URL : <http://gj5000.jp/>

回答開始時期 : 2014年11月1日(予定)

日本の高等教育機関にとっては、学生の海外学習を促進し、多様かつ効果的な国際教育プログラムを開発することが喫緊の課題になっている。日本人の海外留学者数が減少している現状において、留学の意義と成果及びそれらの与える中長期的な効果と影響を明らかにすることは、グローバル人材の育成という課題に取り組む大学(国際教育のカリキュラム改革等)と企業(人材採用とキャリア形成)に対して有益な示唆を提供できると考えられる。

II. ネットワーク構築 - 留学経験者を中心として -

GJ5000では、5000人を対象とした科研調査で得られる知見を更に発展させ、留学の意義や成果を長期間にわたって追跡調査していくことを目的に、留学経験者のオンライン・コミュニティ「留学のすすめ.jp」を立ち上げる。また、単に調査目的のためにネットワークを維持するのではなく、留学という共通の経験を基盤とした人的ネットワークを構築することで、このコミュニティは留学促進に向けたプラットフォームとなる。そのために、「留学のすすめ.jp」は留学経験者同士のネットワーク、各大学の同窓会、留学交流を推進する公的機関(文部科学省「トビタテ!留学 JAPAN」、JASSO、各国大使館など)、非営利の教育交流機関(JAFSA など)、各大学の国際交流部門、国際教育にかかわる研究者、一般企業などと連携し、ネットワークを構築・強化していく。

このコミュニティでは、留学経験のあるミッドキャリアと、これから留学を目指す大学生や高校生などとの間で交流を実現する。若い世代が留学経験者に質問したり、助言を得ることができるようにシステム設計がおこなわれている。留学経験者同士のネットワーキングのツールとして、同じ大学に留学した人たちによるコミュニケーション・ツールとしても活用できるように、掲示板等の機能を装備していく。これは、留学経験者同士のネットワーキングを推進するような各種企画を運営していくうえで有効である。さらに、大学等が実施する留学フェア、留学を促進するための授業などで、留学経験者をゲストとして招へいする場合に、このサイトを使って適切なゲストスピーカーを検索することも可能である。

もともと科研の調査研究からスタートしたプロジェクトを、GJ5000という実践的な活動に展開させる背景には、従来の研究の進め方に加えて、教育や社会へのインパクトをもたらしていく、いわば「アクション型」の研究をすすめる必要性が認識されつつあることが大きい。GJ5000は、実践的研究を通じて、留学経験者のネットワーキングと世代間交流を実現しようとしているが、この取り組みを通じて、5000人の留学経験者を長期にわたって追跡調査することが可能になる。

2014年3月7日のGJ5000キックオフイベントでは、文部科学省、大学関係者、JASSOやJAFSAなど

の教育交流専門機関、テンプル大学ジャパン、日本英語検定協会などに加えて、民間主要企業5社の代表も賛同人として応援メッセージを寄せていただいた。産・官・学の連携をネットワークとして形成していることもGJ5000の特徴である。



<写真>3月7日 「グローバル人材5000」キックオフイベント

III. 教育・啓蒙 - 「留学のすすめ.jp」の運用開始へー

GJ5000では、世代を超えて留学体験を共有するオンライン・コミュニティ、「留学のすすめ.jp」を構築することにより、留学経験者がそれぞれの留学体験をシェアしたり、留学希望者にアドバイスする機能を備えた、留学促進のためのプラットフォームを形成する。ここでは実際にどのようにコミュニティを形成していくかを紹介する。

<「留学のすすめ」提携講座による留学経験のデータベース化>

GJ5000プロジェクトでは、「留学のすすめ」など、留学準備のための授業に取り組んでいる大学と連携を進める。「留学のすすめ」という授業は、グローバル人材の育成をテーマとし、学生が留学の意義を理解すると同時に、留学の準備のプロセスを学ぶための授業で、すでに明治大学や東洋大学で取り組まれている³。このほかにも、名称は異なるが、同じように留学を推奨し、留学準備のための授業を行っている大学は数多く存在しており、こうした授業に取り組んでいる大学と提携しながら以下のような展開を計画している。

「留学のすすめ」の授業では、グローバル社会で活躍している社会人、起業家などが次々と登場し、留学がキャリアや人生に与えた価値について講義をおこなっている。また、授業の課題としては、自

己のポートフォリオと留学志願書を作成するなど、留学への準備と自己実現の可能性を文章化することが課せられている。



2014年春学期「留学のすすめ」告知（協力：公益財団法人日本英語検定協会）

<学生によるインタビュー>

2014年の秋の講座から新たに以下の取り組みを開始して、「留学のすすめ.jp」のコンテンツの一部として公開していく。

- 授業を通じて、学生が留学の価値を理解する機会を持つことに加えて、学生自ら留学経験者とコンタクトし、インタビューする機会を設ける（授業の課題としてインタビューを課す）。
- 親類や先輩など、身の回りに留学経験者がいる場合は、その方にインタビューするが、自分で留学経験者を見つけることが困難な学生には、あらかじめ「留学のすすめ.jp」に登録をお願いしている留学経験者を紹介する（大学関係者やGJ5000関係者の人的なネットワークにより、あらかじめ一定数の留学経験者に登録をお願いしておく）。
- 学生に対しては授業の中で、インタビューの手法、留学経験者とのコンタクトや依頼のプロセス、などを指導するガイダンスを徹底する。このガイダンスの内容は指導用キットとしてオンライン化し、他大学などで同様の取り組みをおこなう場合に活用できるようにする計画である。
- 学生はインタビューした内容や写真を「留学のすすめ.jp」Webサイトにアップロードし、授業担当者と当該の留学経験者が内容を確認したあと、同サイトの記事として公開する。

- 「留学のすすめ」や同じ趣旨の留学準備講座や異文化理解講座を持つ大学に、授業の中で、こうした課題を課すことを基本的な授業内での流れと共に提案し、提携大学を拡大していく。
- この「留学のすすめ」提携大学の担当教職員のネットワークを形成し、研修会や意見交換会などを開催していく。

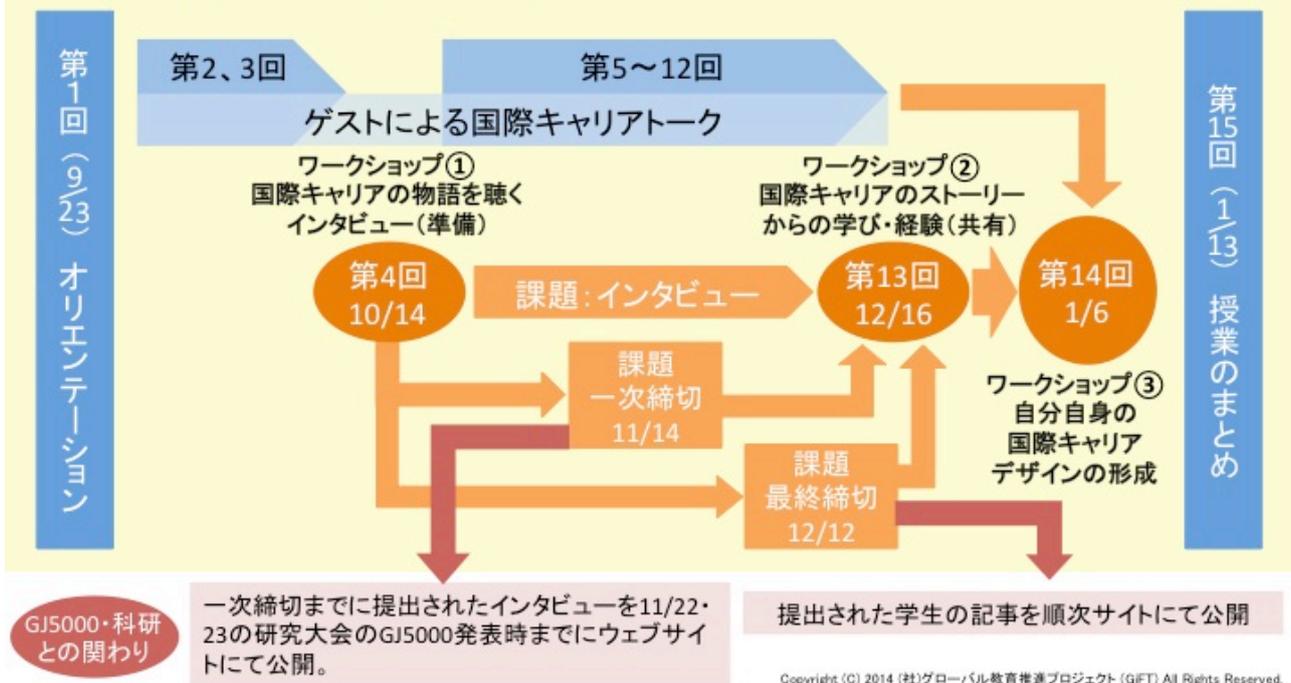
『留学のすすめ』提携大学におけるパッケージ授業の提供

『留学のすすめ』もしくは同様の授業を実施している大学と連携し、パッケージを開発、提供。

- ・3～5コマを連携講座として活用
- ・インタビューを課題の1つとして取り入れ、学生自身が直に留学経験のあるロールモデルに触れる機会を提供

モデルケース：東洋大学『国際キャリア概論』（2014年度秋学期開講）

3コマを「留学のすすめ.jp」との連携講座として行い、学生自身の国際キャリアデザインの形成まで行うことを目標とする。3つの講義（第4、13、14回）はGiFT（事務局長辰野）が担当。



<留学経験者と留学希望者との交流サイト>

「留学のすすめ.jp」のサイトを活用し、留学を希望する大学生や高校生は、留学経験者に質問をしたり、アドバイスを受けることができる。留学経験者は、自らの留学経験が記事として掲載されるほか、学生からの質問や相談がある場合に、都合があれば自らの留学体験に基づいて助言をおこなうことができる。

こうしたオンライン上の交流は、当面は授業の一環としておこなうものであるが、徐々に一般の高校生、大学生にも公開していく。また、留学経験者の方々にも積極的に参加を呼びかけ、メンバー登録を以下のようにすすめていく。

- 科研調査研究のオンラインアンケートに協力していただいた方の中で、サイトの趣旨に同意していただいた方に加入をお願いする。

- 逆にサイトの趣旨に同意して登録していただいた方にアンケートに協力をお願いする。
- 大使館、公的留学交流機関、大学関係者、同窓会関係者に呼びかけ、サイトへの参加と科研アンケートへの協力を同時に依頼する。

また、オンライン以外の交流を進める場として、GJ5000の構成団体であるグローバル教育推進プロジェクト（GiFT）や日本国際化推進協会などと提携して、定期的に交流会を実施するほか、世代間でキャリアや地球市民教育について意見交換するロールモデルカフェなどへの参加を呼びかける。

IV. 今後の展開 - 11月のサイト公開とその後 -

「留学のすすめ.jp」は以下の研究大会において特別セッションを実施し、サイトの内容、運用形態にかかわる詳細説明をおこなう。

学生の海外体験学習とグローバル人材育成にかかわる研究大会

～多様化する海外体験学習と質保証～

【日程】2014年11月22日（土）／23日（日）

【会場】東洋大学 白山キャンパス（文京区白山5-28-20）

【基調講演】Darla Deardorff（デューク大学）

【内容】本研究大会では、大学生、高校生が自らの海外学習の成果を発表する。また、国際共同学習の企画・運営のあり方、学習成果分析の手法、ポートフォリオなどの活用例などについて各教育機関の実践例から学び、意見交換を深めていく。

<お問合せ>

東洋大学 国際地域グローバルオフィス

tel. : 03-3945-8172 mail : ml-g-office@toyo.jp

サイト運営にあたっては、個人情報の取り扱い、不適切な利用を防ぐために、以下のような点に配慮しながら万全の運営体制で臨む予定である。

- 架空の人物による登録、匿名登録を防ぐため、基本的に紹介を受けた招待者をメンバーとして、運営を開始する。直接に参加申し込みがあった場合、匿名性を排除するポリシーを徹底する。
- 留学斡旋を仕事としている方の場合、営業行為などをおこなわないよう、厳しいガイドラインを設定する。守らなかった場合の罰則と運用方法を確立する。参加する学生にもこのポリシーについて周知する。
- 留学経験者にとって、サイトに参加するにあたってインセンティブが明確になるように、メリッ

ト(社会貢献や自身のネットワーキングにおいて有意義な面)を強調する。交流会や同窓会など、留学経験者同士のネットワークにも参加してもらおう。

なお、「留学のすすめ.jp」の運営については、科研調査研究終了後、一般社団法人「持続可能な国際化を推進するための研究コンソーシアム」が主体となって、管理・運営を担当する予定である。

今後より多くの方々と共に日本のグローバル人材育成を加速させる取り組みとして、GJ5000 プロジェクトならびに「留学のすすめ.jp」への参加を呼びかけていく。大学関係者、社会人、学生の皆さんに、更なるご協力とご理解をお願いしたい。

<GJ5000 プロジェクトの問合せ・連絡先>

URL:<http://gj5000.jp/>

E-mail : globaljinzai5000@gmail.com

<「留学のすすめ.jp」のURL>

URL: <http://ryugaku-susume.jp> (2014年11月中旬オープン予定)

<GJ5000 プロジェクトの組織体制>

「グローバル人材 5000 プロジェクト」運営委員会

<参加機関及び研究チーム>

- 科学研究費補助金・基盤研究(A)「グローバル人材育成と留学の長期的インパクトに関する国際比較研究」<研究代表者 横田雅弘 明治大学教授>
- 一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)
- 一般社団法人 日本国際化推進協会
- 一般社団法人 持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム

賛同団体・機関

(キックオフイベントで応援メッセージをいただいた機関)

- 文部科学省
- 日本学生支援機構
- 株式会社ディスコ
- 公益財団法人日本英語検定協会
- 東洋大学グローバルキャリア教育センター
- 明治大学国際教育研究所
- 株式会社リクルート
- テンプル大学ジャパン
- 株式会社 朝日ネット
- 株式会社 ベネッセコーポレーション
- 一般社団法人 JAOS 海外留学協議会
- 株式会社アゴス・ジャパン
- 米国大学院学生会
- 特定非営利活動法人 JAFSA (国際教育交流協議会)

＜参考文献＞

- Bracht, O., Engel, G., Janson, K., Over, A., Schomburg, H., & Teichler, U. (2006). *The professional value of ERASMUS mobility*. Kassel: International Centre for Higher Education Research, University of Kassel.
- Deardorff, Darla K. and Jones, Elspeth. (2012). Intercultural Competence: An Emerging Focus in Post-Secondary Education. In Deardorff et al.'s *The Sage Handbook of International Higher Education*.
- Fry, G., Paige, R. M., Jon, J., Dillow, J., & Nam, K. A (2009, November). The transformative power of study abroad. Portland, Maine: Council on International Educational Exchange (CIEE). Occasional Papers, no. 32.
- Hoffa, W., & Forum on Education Abroad. (2007). *A history of US study abroad: Beginnings to 1965*. Carlisle, PA: Forum on Education Abroad.
- Paige, R. M., Fry, G., Jon, J., Stallman, E., & Josic, J. (2010). *Beyond immediate impact: Study abroad for global engagement*. Research Monograph submitted to the U.S. Department of Education.
<http://www.calstate.edu/engage/documents/study-abroad-for-global-engagement.pdf>
- Vande Berg, M., Connor-Linton, J., & Paige, R. M. (2009). The Georgetown Consortium Project: Interventions for student learning abroad. *Frontiers: The Interdisciplinary Journal of Study Abroad*, 18, 1-75.
- Vande Berg, M., Paige, R. M., & Lou, K. H. (2012). *Student learning abroad: What our students are learning, what they're not, and what we can do about it*. Sterling, Va: Stylus Pub., LLC.
- 横田雅弘, 小林明 (2013) 「大学の国際化と日本人学生の国際志向性」学文社

¹ 留学の成果指標として、異文化適応力や外国語能力にかかわる能力の拡大をとりあげた研究は非常に多いが、そうしたアセスメントの成果を蓄積して教育プログラムの改善に役立てようとする動きが始まっている。Forum on Education Abroadでは、学習成果分析の成果を国際教育の実務者の間でシェアするために情報共有する試みをすすめている。同様に NAFSA の Knowledge Community や EAIE Academy においても実務者の間で研究成果の共有がすすめられている。

² SAGE は、R. Michael Paige, Gerald W. Fry (ミネソタ大学) を研究代表者とし、米国教育省タイトル 6 条項研究補助金 (国際調査・研究プログラム) の財政支援を受けて実施された。留学の長期的インパクトを分析する調査で、以下を主要な調査対象としている: (1) 個人や職務に係る利益を超え、社会的利益や公共の利益の検証; (2) 市民的社会参画 (Civil Engagement) に関わる調査: ボランティア活動、地域奉仕活動、サービ斯拉ーニング、アドボカシーなど; (3) 行動的発現に関わる調査 (behavioral manifestations)。

³ 明治大学では 2011 年度から、東洋大学においては 2013 年度から「留学のすすめ」という授業が開始されている。これらはいずれも公益財団法人日本英語検定協会の提携講座として運営されている。